

フィリピン滞在記 ⑪---天皇・皇后両陛下のフィリピン訪問を通して思うこと

為我井輝忠

「わりい」3月号の原稿の締め切りが近づいてきて、はて、今回は何を書こうかと迷ってしまった。5月の大統領選挙のことなどが多少興味あるテーマとして思い浮かんだ。しかし、旧正月については昨年寄稿したし、大統領選挙については5月号にと考えているので、今回は天皇・皇后両陛下のご訪問について書いてみたいと思う。

両陛下がフィリピンを訪問されたのは1月26日から30日までであった。今回のご訪問の最大の目的は太平洋戦争で亡くなられた方々を慰霊するために「比島戦没者の碑」があるガラリヤを訪ねることと、日比国交正常化60周年記念の国賓としての招待に答えるの訪問であった。両陛下のフィリピン訪問は皇太子時代の1962年にもあり、実に54年振りであった。現地の新聞やテレビなどでの報道は見る限り全面的に好意的で、かつての日本や日本人に対する悪意のある報道などは全くなかった。戦後70年を経て、時代の流れは大きく変わってきたと実感した。

私のレポートはすべてフィリピンで報道された新聞やテレビでの情報を基にしていて、日本の報道から得たものはあまり多くないことをまず述べておきたい。

30日の到着以来、連日様々な行事や式典に出席されて、大きな親善を果たされてきた。参考に、おおよその公式日程を紹介したい。

両陛下がこのようなタイトな日程を難なくこなし、無事日比間の親善に務められたことは大いに慶することである。大統領晩餐会において、天皇陛下は「貴国の国内において日米両国間の峻烈な戦闘が行われ(略)貴国の多くの人々が命を失い、傷つきました。このことは、私ども日本人が決して忘れてはならないことであり、この度の訪問においても、私どもはこのことを深く心に置き、旅の日々を過ごすつもりです」と述べられたが、今回のご訪問のメッセージはこれに凝縮されているように思える。

太平洋戦争においてフィリピンでは約51万8千人の日本人が亡くなった。外地では最

大の数である。この悲惨な戦争について、日本では多くの記録が残され、小説や映画にもなった。数多くの慰霊碑がフィリピン国内に作られた。しかし、フィリピン側の犠牲者について思いを寄せたり、悔悟を示した例は非常に少ない。フィリピン側の死者は111万人にも及んだ。当時の国民の16人に一人の割合で、ロムス元外相は「人口に比してアジア最大の惨禍を受けた国」と語っている。

今回の旅行は「巡礼の旅」という印象が強いが、フィリピン人戦死者が祀られている無名戦士の墓への訪問や国籍未取得者を含む多数の日系人との懇談も天皇ご自身が望んだものと伝えられている。

日本側の報道ではほとんど知られていないが(わずかに『週刊朝日』が取り上げていた)、昨年11月30日に到着した陛下の荷物が12月2日に税関の手によって開けられ、検査を受けたという報道がフィリピン側のマスコミをにぎわせた。

特に在住日本人の間でひとしきり話題となったが、これは外交関係に関するウィーン条約では、「外交封印袋は開きまたは留置することもできない」と規定されているからである。このような事態が起き、関わった職員は厳重な注意を受けたという。宮内庁はこの件については「承知していません。宮内庁から送った荷物はありません」との答えであった。日本側としてはせっかくの訪問に水を差したくないとの判断があったのかもしれない。

以上が私がフィリピンで見聞きした天皇・皇后両陛下の同国での旅行に関する情報である。

日付('16.1月)		公 式 日 程
27日	午前	マラカニアン宮殿で歓迎式典、リサール記念碑に献花
	午後	英雄墓地で献花し、フィリピン側戦没者を慰霊夜、大統領主催の晩餐会
28日	午前	フィリピン人元留学生、日系人、在留邦人と懇談
	午後	フィリピン人看護師候補生が学ぶ語学研修センター訪問夜、日本大使夫妻主催のレセプション
29日	午前	ガラリヤへ日本人戦没者慰霊碑訪問
	午後	ロスバニョスにある国際稲研究所視察
30日	午前	日本へ帰国